

京都府

京都府地域包括ケア構想の (地域医療ビジョン) 実現を目指して

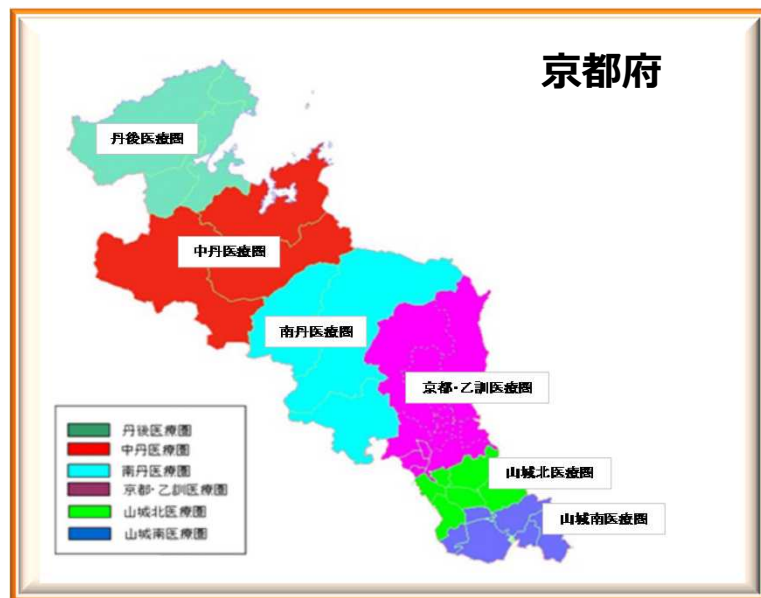
資料概要：

2025年には、医療のみならず介護・福祉に係る様々な課題が想定されることから、介護・福祉の分野を含む総合的な指針として「京都府地域包括ケア構想」を策定しました。

構想の実現に当たっては関係団体や市町村の協力が不可欠であることから、京都府では関係団体、関係機関の意見を十分踏まえた上で進めていくこととしています。

本資料では、医療機能の現状をはじめ、地域医療構想調整会議等の進め方についての考え方などをまとめています。

1 都道府県及び構想区域の基礎情報



構想区域	人口 (千人)	市町村 数	報告対象 病院数	公立病 院	公的医 療機関 等	その他	報告対 象有床 診療所	医師数	人口10 万対
丹後	97	6	6	2		4	2	168	175.3
中丹	196	3	14	4	2	8	9	423	217.2
南丹	137	3	11	3		8	5	241	177.3
京都・乙訓	1,623	4	104	2	8	94	47	6,411	394.5
山城北	438	7	23	0	1	22	9	803	184.0
山城南	117	5	3	2	0	1	2	157	133.0

構想区域	平成28年度病床機能報告における病床数								2025年病床数の必要量（目標数）				
	高度急性 期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	非稼働 病棟	未報告	合計	高度急性 期	急性期	回復期	慢性期	合計
丹後	16	832	96	232	25	0	0	1,202	12,000~13,000		8,000~ 9,000	8,000~ 9,000	1,197
中丹	106	1,281	358	426	80	2	14	2,265					2,205
南丹	0	759	51	567	52	1	1	1,430					1,430
京都・乙訓	4,675	6,893	1,749	6,353	282	6	105	20,057					20,206
山城北	252	1,629	499	1,542	19	0	34	3,975					4,184
山城南	0	370	157	115	43	1	0	685					735

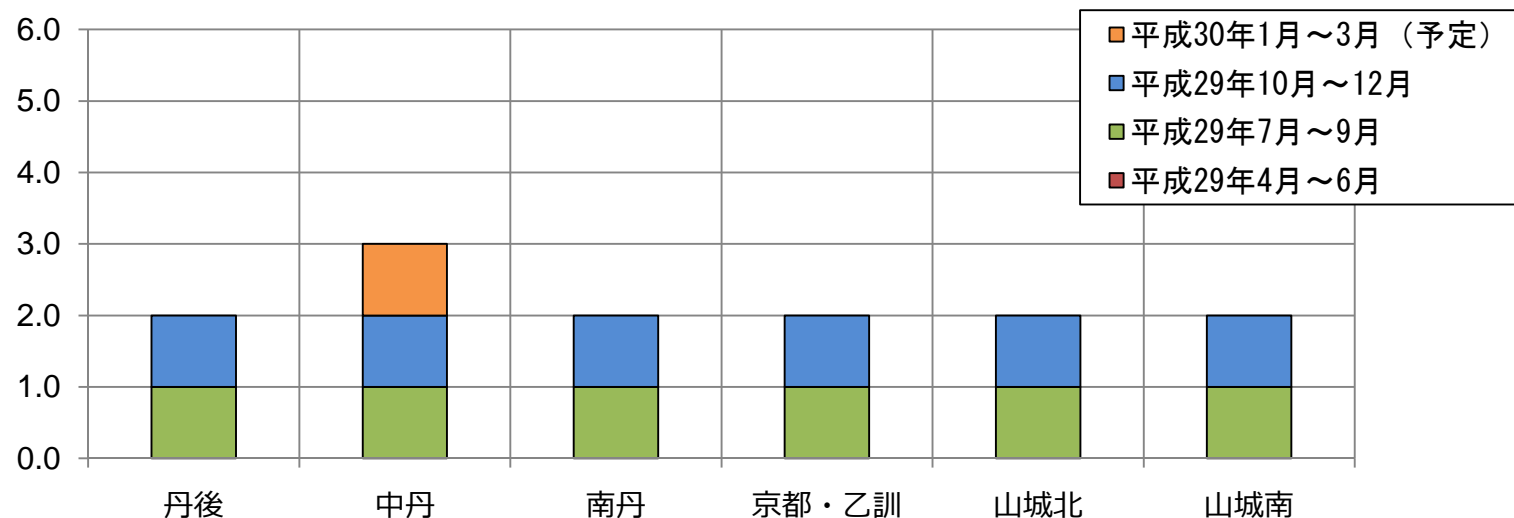
※H30.1月時点

2 京都府の特徴

- ・ 京都府は南北に長く、地域ごとに特色や課題が異なる。
- ・ 人口は平成17年に減少に転じ、今後もこの傾向が続くと予測される。
- ・ 北部地域は高齢化率が高く、人口の減少率も高い。
- ・ 京都・乙訓地域には人口や医療機関が集積し、他県や他地域からの患者流入も激しい。
- ・ 南部地域は人口が増加している地域があり、高齢化率は高くない。
- ・ 中・南部地域は鉄道網が充実し、府内を南北に貫く高速道路が完成したため、従来より移動時間が大幅に短縮され、今後生活圏が変化することも予測される。

3 地域医療構想調整会議における議論の進捗状況

■ 構想区域ごとの調整会議の開催状況（開催延べ回数）（平成29年12月末時点）

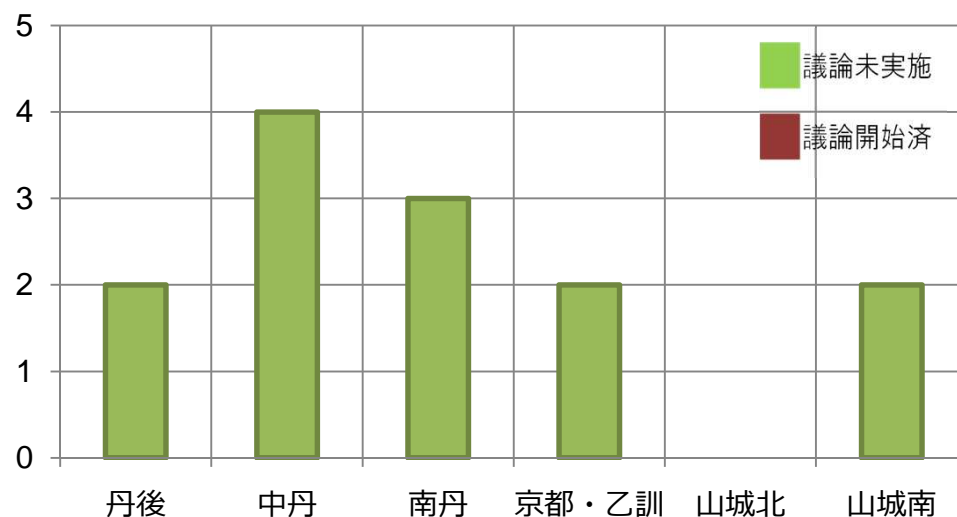


■ 意見交換会等の取組例

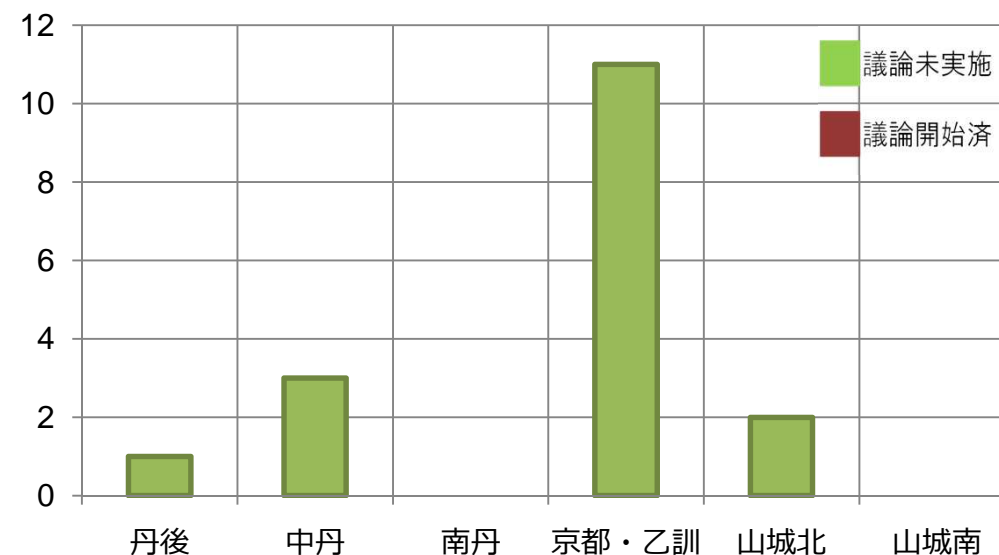
- ・ 病院、地区医師会をはじめとした各団体の地域の代表者、福祉関係、保険者、市町村等で、地域医療構想調整会議を構成。
- ・ より幅広い議論が行えるよう、従来から定期的に行っている保健医療協議会と合同開催としている。
- ・ 病院数が100を超える京都・乙訓地域を除き、すべての病院に参加を求めている。
- ・ 山城北圏域、山城南圏域では、独自に病院のみで情報共有を図るためのワーキング会議を開催している。

4 新公立病院改革プラン及び公的医療機関等2025プランの進捗状況

- 構想区域ごとの新公立病院改革プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



- 構想区域ごとの公的医療機関等2025プランについて、調整会議での議論を開始した病院数／策定対象病院数



- プランの活用について

協議の進め方

- ・ 関係団体等と協議し、方針を決定する予定

活用方法

- ・ 関係団体等と協議し、方針を決定する予定

スケジュール

- ・ 関係団体等と協議し、方針を決定する予定

5 地域医療構想の達成に向けた独自の工夫

- ・各医療機関の自主性を重んじ、独自性を損なうことなく、目標に近づけていくというスタンスを取っている。
- ・目標達成には、関係団体の協力が不可欠なため、構想策定や実現のためのプロセスにおいて、関係団体との協議を十分行うようにしている。
- ・将来の人口、疾病構造、医療需要、移動時間等の変化などを考慮し、柔軟に対応していくこととしている。

6 医療機関の再編・統合の参考事例

- ・事例なし

7 都道府県としての来年度への抱負

地域医療構想調整会議の運営について

- ・より活発な意見交換が行えるような工夫が必要。
- ・議論が散漫にならないよう、テーマ設定の工夫も必要。

医療機関の機能分化・連携の支援について

- ・地域医療総合確保基金を活用した、病床転換のための補助制度を創設し、医療機関の機能分化、連携を図る。

介護施設・在宅医療等の整備について

- ・地域医療総合確保基金を活用した、在宅医療設備整備支援、訪問看護ステーション運営支援のための補助制度を創設し、在宅医療の受け皿整備を図る。
- ・介護施設については、基金を活用し、小規模多機能型居宅介護事業所や認知症高齢者グループホームなどの地域密着型サービスについても整備が充実するよう取り組む。